

## 王妃エステル物語

(エステル4・13〜17)

きょうは児童祝福礼拝です。お話の対象は子供たちです。大人の皆さまも童心に返ってお聞きください。

### 一、ペルシヤ帝国

この物語は、いつの時代、どこの国のお話でしょうか。イエスさまが生まれるよりも、ずっとずっと昔のお話です。場所は、ペルシヤ帝国という大きな国の出来事です。ペルシヤ帝国を治めていたのは、アハシユエロス王さまでした。王さまにはすごい力がありました。アハシユエロス王さまは、シュシヤンにあったお城で大宴会を開きました。東から、西から、南から、北から、おおぜいの偉い人たちが集まりました。大宴会は六ヶ月も続きました。宴会が終わると王さまは、お城の庭に、さらに多くの人たちを集めました。王さまはお酒を飲んで、いい気持ちになりました。王さまは、自分のきれいな奥さまを、すなわち王妃をみんなに見せたいと思いました。王妃の名前はワシユテイです。王さまはワシユテイ王妃を連れてくるように、しもべに命じました。ところが、王妃は、王さまの命令に従いませんでした。王さまは非常に怒りました。王さまの命令には絶対に逆らっては

けない、そういう時代でした。王さまはわがままですね。イエスさまはどうだったでしょうか。イエスさまは神の国の王さまです。ですが、イエスさまはへりくだっていました。イエスさまは人として生まれられました。神さまでもあられました。ということは、神さまというお方は、へりくだった、やさしいお方だということが分かります。アハシユエロス王さまと正反対です。

### 二、エステルさん

さて、アハシユエロス王は、頭の良い七人のしもべたちを呼んで、王妃ワシユテイをどうするか、相談しました。こうして、王さまは、新しい王妃を迎えることにしました。王さまは、王国の中から美しい女性を集めるよう、しもべたちに命じました。ペルシヤ帝国の中から、特別に美しい女性たちが集められました。集められた女性たちは、さらに美しくなるために、好きだけ化粧品が与えられました。さらに、彼女たちに仕える女性たちが置かれました。王さまのために集められた女性たちの中に、エステルさんがいました。エステルさんはとても美しい人でした。そればかりではありません。心も美しい人でした。こうして、美しい女性たちは一年かけて、さらに美しくなつて一人ずつ王さまのところと呼ばれました。エステルさんも呼ばれました。エステルさん

は、自分から「あれがほしい、これがほしい。ああしてほしい、こうしてほしい」と言いませんでした。自分にあてがわれたもので満足し、感謝しました。すると、王さまのしもべたちも、エステルに仕える女性たちも、みんながエステルさんを好きになり、エステルさんを尊敬しました。エステルさんが王さまに呼ばれると、王さまはエステルさんが気に入りました。姿だけでなく心も美しかったからです。こうして、王さまはエステルを王妃にしました。

### 三、モルデカイ

さて、エステルさんには、自分を育ててくれた人がいました。お父さんとお母さんが死んでしまったからです。そこで、親戚のモルデカイさんがエステルさんを引き取って、自分の娘として育てました。モルデカイさんは、まことの神さまを信じるユダヤ人でした。エステルさんもまことの神さまを信じるユダヤ人でした。モルデカイさんはいつもお城の門の所にいました。昔、門の所にいる人は、たいせつなお仕事を任された人たちでした。モルデカイさんは、王さまのたいせつなお仕事をしていました。あるときのことです。お城の入口を守っていた王さまの二人のしもべが、王さまに腹を立てて、王さまを殺す計画を考えていました。そのことをモルデカイさんが知り、モルデカイさん

は王妃エステルさんに知らせました。エステルさんはそのことを、モルデカイから知らされたとして、王さまに知らせました。王さまが調べると、その計画はほんとうだったので、二人のしもべは処刑されました。そのことは王室の記録の書に書かれました。

### 四、ハマンの登場

その後のことです。ハマンという、頭は良いのですが、心の悪い人がどんどん偉くなって、ついに王さまの次に偉い人になりました。ハマンが歩くと、人々は深くお辞儀をしました。ハマンは、ますます威張るようになりました。「そうだ。私は偉いのだ」と思いました。ところが、一人だけハマンにお辞儀をしない人がいました。お城の門の所でお仕事していたモルデカイさんです。モルデカイさんはまことの神さまを信じるユダヤ人でしたから、自分が偉いと思っている人、高ぶっている人に対して、お辞儀をしませんでした。そうしたら、ハマンがカンカンに怒って、思いました。「私はモルデカイがにくい。よし、モルデカイだけでなく、モルデカイの民族であるユダヤ人を皆殺しにしてやる」と。さっそく、ハマンは王さまに提案しました。「王さま、この国の中に、王さまの命令を守らない者たちがいます。彼らをそのままにしておくのは、王さまのためになりません。彼らを

殺す法律を作ったらいかがでしょうか」と。王さまはハマンを信用していただき、すべてをハマンに任せました。ハマンはさっそく、王さまの名によって、第十二の月の十三日にユダヤ人全員を殺すという命令を出し、ペルシヤ帝国のすべての場所に知らせが届けられました。ペルシヤ帝国に住むユダヤ人たちはびっくりして、大騒ぎになりました。お城の門の所でたいせつなお仕事をしていたモルデカイさんは、エステル王妃に手紙を書き、詳しいことを知らせました。エステル王妃は自分がどうしたらよいか、分かりませんでした。すると、モルデカイさんはもう一度、エステル王妃に手紙を書きました。手紙には次のように書いてありました。

#### 五、エステルへの献身

エステルさんは立ち上がりました。エステルさんはモルデカイさんに返事を書き送りました。手紙には、次ように書いてありました。〈エステル4・16〉行

つて、シュシャンにいるユダヤ人をみな集め、私のために断食をしてください。三日三晩、食べたり飲んだりしないように。私も、私の侍女たちも、同じように断食をしましょう。たとい法令にそむいても私は王のところへまいります。私は死ななければならぬのでしたら、死にます。と。こうして、エステルさんは王さまのところへ行きました。王さまに呼ばれていないのに、王さまのところに行くのと、殺されてしまうかもしれない。王さまが笏を伸ばし、エステル王妃がさわれば、殺されることはありませんでした。王さまは金の笏を伸ばし、エステルはさわりました。「王妃エステル。どうしたのだ」と王さまが尋ねると、「もしも、王さまがよろしければ、きょう私が用意する宴会に、ハマンといっしょにお越しください」と、エステルは答えました。その日、王さまとハマンは王妃エステルが用意した宴会に行きました。「王妃エステル。何がほしいのだ」と王さまが訪ねると、「もしも、王さまがよろしければ、あす私が用意する宴会に、ハマンといっしょにもう一度お越しください。そうすれば、お話しいたします」とエステルは答えました。その日ハマンは、上機嫌になりました。「王妃エステルさまが用意した宴会に、王さまと私だけが招かれた」と、家族に自慢しました。

#### 六、神の取り計らい

さて、王さまはその晩、なぜか眠れませんでした。そこで、しもべに王室の記録の書を持って来させ、読ませました。記録の書には、かつて二人のしもべが王を殺そうとしたことをモルデカイが報告したと書いてありました。「このためにモルデカイに、何か褒美を取らせたいか」と、王が尋ねました。「何もしておりません」と、しもべは答えました。ちようどその時に、ハマンが王さまの庭で仕事をしていました。王さまはハマンを呼び寄せて言いました。「王が褒美を取らせようとする者には、どうしたらよからうか」。ハマンは心の中で思いました。「王は、私に褒美を取らせようとしている」と。ハマンは言いました。「その人には、王さまが着ておられた服を着せ、王さまの冠をかぶらせ、王さまが乗られた馬に乗せ、町の広場に行き、偉い人に叫ばせるのです。『王が褒美を取らす者は、このようになる』と。王さまはハマンに言いました。「おまえが言ったことを、ユダヤ人モルデカイにしなさい」と。こうして翌日、ハマンはそのとおりにしました。ハマンはモルデカイに、王さまが着ておられた服を着せ、王さまの冠をかぶらせ、王さまが乗られた馬に乗せ、町の広場に導き、叫びました。「王が褒美を取らせる者はこのようになる」と。その日の夕方、王

さまとハマンは、王妃エステルが準備した宴会に行きました。王さまはエステルに尋ねました。「あなたは何を願っているのか」と。エステルは答えました。「もしも王さまのお許しが得られるなら、私の願いを聞き入れて、命をお与え下さい。私も私の民族も皆殺しにされようとしているのです」と。王は尋ねました。「そんなことをしようとはくらくらしているのはだれか。どこにいるのか」と。「それは、この悪いハマンです」と、エステルは答えました。ハマンは真つ青になり、王とエステルの前に震え上がりました。王さまは怒って、外に出て行きました。ハマンは、王妃エステルに命だけは助けてほしいと願ひ求めようとして残りました。王が戻ってくると、ハマンが王妃エステルの前にひれ伏して願ひ求めています。王は怒って、ハマンを処刑するように命じました。こうして、ユダヤ人を皆殺しにする王の命令は取り消されました。

神さまを信じて、まっすぐに歩んでいきますと、神さまは助けてくださいます。守ってください。エステルさんが信じていた神さまは、イエス・キリストによってご自身の姿を現されました。イエス・キリストを信じて、まっすぐに歩んでいきますと、神さまは助けてくださいます。守ってください。